

1 これまでの状況

区における特別支援教育の取組み

「練馬区特別支援教育あり方検討委員会報告」  
(平成19年3月)

個別指導計画の作成、校内委員会の整備・充実 など  
知的障害学級の増設 など

「練馬区立小・中学校における特別支援教育充実  
の取組」(平成29年7月)

就学相談の改善  
校内体制の充実  
支援学級・支援教室の設置、環境整備  
教員の専門性向上  
関係機関との連携強化  
障害理解の促進

就学相談

令和5年度実績：678件受付(10年前の約2倍増) 右表上

特別支援学級(知的、難聴、弱視、言語)

知的固定学級

小学校10校(H18) 16校(R5)  
中学校6校(H18) 8校(R5)

通級学級(難聴、弱視、言語)

小学校7校(H18) 8校(R5)  
中学校2校(H18) 2校(R5)

知的固定学級在籍人数(5年度5月1日現在)

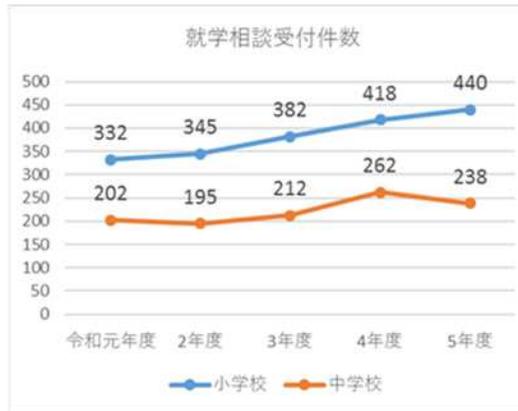
小学校456人(10年前比約1.6倍増)  
中学校239人(10年前比約1.2倍増) 右表中

特別支援教室(発達障害)

全小中学校に設置。児童生徒が通う通級方式から、  
拠点校(小17校、中4校)から教員が巡回する  
方式に。

在籍人数(5年度5月1日現在)

小学校828人(10年前比約3.4倍増)  
中学校263人(10年前比約2.8倍増) 右表下



2 今後10年程度を見据えた際に直面する課題

多様な支援を必要とする障害児の増加

特別支援学級

障害の程度に関わらず、区立学校への就学希望者が  
増加している。

生活支援員では対応が困難な児童・生徒の増加

特別支援教室

通常学級に通う公立小中学校の児童生徒の8.8%が  
発達障害の可能性あり(国調査)。

【区の特別支援教室利用の割合 5年度】

小学校 約2.5% 中学校 約2.0%

教室数不足の可能性、教員の負担増

知的固定学級における地域差

教育内容

在籍児童・生徒の状況により、指導内容や学校行事  
等への参加、ICT活用など学校ごとの違いが発生。

学校の選択

知的固定学級は通学区域がなく、保護者の意向により  
学校の選択が可能のため、地域差が発生。

在籍児童・生徒数の地域差(5年度)

練馬第三小学校45人 旭丘小学校 16人  
石神井中学校 52人 旭丘中学校 6人

受け入れ不可となる学校が発生する可能性

新たなニーズへの対応

自閉症・情緒障害などへの対応

義務教育終了後の進路選択の多様化

現在の方針では新たなニーズへの対応が困難

### 3 新たな支援方針の策定に向けて

#### 【策定の目的】

特別支援学級、特別支援教室在籍児童・生徒数の増加、障害の重複などによる必要な支援の多様な課題に対応し、よりきめ細やかな指導を実施していくため、令和6年度に特別支援教育にかかる新たな支援方針を策定する。

#### 【策定方法】

方針策定にあたっては、関係者等からの意見聴取の場として、特別支援教育推進委員会を活用する。また、庁内の策定検討委員会を設置し、案を検討する。

#### 特別支援教育推進委員会

新たな方針の策定に対する意見等を聴取（要綱設置の委員会）

各委員の皆様のお立場から議題に関するご意見をお伺いし、出されたご意見等を事務局でまとめながら、アンケートや素案に反映し検討委員会で検討していく。

#### 庁内策定検討委員会

特別支援教育推進委員会の意見を踏まえながら、新たな方針を策定するための庁内委員会

#### 【策定までのスケジュール案】 調整中

月	検討委員会	推進委員会	議題等
5			(議題)・区の現状と課題 ・アンケート項目について
6			アンケート作成、実施、集計、分析
7			
8			
9			(議題)・アンケート結果 ・素案の骨子の提示
10			
11			・素案作成
12			・パブリックコメント実施
1			
2			(議題)・パブコメに対する区の考え方 ・素案から案への変更点
3			

### 4 方針策定にあたり参考とするアンケート項目の検討

#### 【アンケート項目の精査】

児童生徒・保護者・教員に対する質問項目として考えられる内容を下記のとおり例示した。これらを参考に、回答しやすく、必要な情報を得られるよう質問を精査し、アンケート項目を決定する。

#### 【在籍児童生徒へのアンケート例】

- ・学校生活について（楽しいかどうか、困っていることの有無やその内容等）
- ・授業内容について（授業が理解できるかどうか、授業内容が自分にあっているかどうか等）
- ・主に授業を行っている教室について（広さ、便利なこと、不便なこと等）
- ・通学（登下校）について（どのように通っているか、時間の長短について等）
- ・その他、学校や教室、授業などがこうなったら良いと思うこと（自由記入）
- ・卒業後に希望する進路について（中学生のみ）
- ・学校で教えてほしいこと、できるようになりたいこと  
学年や対象者に応じて、適切で分かりやすい設問文を工夫する

#### 【保護者へのアンケート例】

- ・児童・生徒等について（居住地区・性別・年齢・通学・就労等の状況・家族の状況等）
- ・保護者の状況について（就労状況・通勤時間・当該児童・生徒とかかわる時間数等）
- ・子どもの障害や発達課題などに気がついたきっかけについて
- ・現在通学している学校等を選択した理由について
- ・現在通学している学校等を選択するにあたり、相談した機関等について
- ・現在の通学等している学校等について（満足していること、課題や不満なこと、今後期待すること）
- ・現在の主な相談先について（具体的な相談先、満足していること、課題や不満なこと、今後期待すること）
- ・現在通学している学校等を卒業した後の進路について（進路、卒業後の不安、期待する支援策について）
- ・家族への支援について
- ・練馬区に今後期待すること

#### 【教員へのアンケート例】

- ・回答者本人について（性別・年齢・職名・勤務年数・特別支援学校教諭免許の有無・特別支援教育の担当経験等）
- ・特別支援教育の担当経験等について（研修や認定講習の受講実績・人事交流実績・担当年数・指導内容など）
- ・練馬区の特別支援教育について（良い点、問題・課題のある点、将来に向けて改善すべき点）
- ・今後の教職員の専門性向上のために必要なことについて
- ・指導上、悩んだ際の相談先について
- ・保護者や一般市民の理解の現状および理解促進に必要なことについて
- ・今後、練馬区に期待すること
- ・情緒障害等学級の固定級について
- ・情緒等教室の担当校制と担任制について